

情報セキュリティ総論

第4回 初級 問2 - 4より 正答率：68.9%

以下の文章を読み、()に入る最も適切なものを、それぞれ下の選択肢(ア～エ)から1つ選びなさい。

意匠権は、()する権利である。

ア：混同惹起行為を防止

イ：著名表示冒用行為を禁止

ウ：物品のデザインを保護

エ：商品・サービスに使用するマークを保護

正解 ウ

意匠権は、物品のデザインを保護する権利である。

なお、商品・サービスに使用するマークを保護する権利は、商標権である。

第4回 管理士 問2 - 18より 正答率：70.4%

個人情報保護法における個人情報取扱事業者の義務に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

ア：利用目的を変更した場合は、変更された利用目的について、本人に通知し、または公表しなければならない。なお、通知・公表することにより本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合は、適用されない。

イ：従業者に個人データを取り扱わせるに当たっては、当該個人データの安全管理が図られるよう、従業者に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

ウ：公衆衛生の向上または児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるときであっても、あらかじめ本人の同意を得ないで個人データを第三者に提供してはならない。

エ：個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理に努めなければならない、そのために必要な体制の整備に努めなければならない。

正解 ウ

ア：適切な記述である。

利用目的を変更した場合は、変更された利用目的について、本人に通知し、または公表しなければならない。なお、通知・公表することにより本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合は、適用されない。

イ：適切な記述である。

従業者に個人データを取り扱わせるに当たっては、当該個人データの安全管理が図られるよう、従業者に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

ウ：誤った記述である。

あらかじめ本人の同意を得ないで、個人データを第三者に提供してはならない。なお、公衆衛生の向上または児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難である場合は、適用されない。

エ：適切な記述である。

個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理に努めなければならない、そのために必要な体制の整備に努めなければならない。

情報資産に対する脅威

第4回 初級 問1 - 7より 正答率：73.6%

以下の文章は、情報セキュリティに関する知識を述べたものです。正しい場合は、誤っている場合は×と
しなさい。

パスワードクラックの手法のうち、オフライン攻撃では、パスワードの文字列として考えられるすべての組
合せを順に試していき、パスワードを推測する。

正解 ×

パスワードクラックの手法のうち、パスワードの文字列として考えられるすべての組合せを順に試していき、
パスワードを推測するのは、総当たり攻撃（ブルートフォース攻撃）である。

なお、オフライン攻撃とは、パスワードを格納しているファイル、もしくはパスワードがかけられているファ
イルを入手して、パスワードを推測する手法である。

第4回 管理士 問2 - 19より 正答率：66.7%

電子メールの脅威に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

ア：ウイルスメールとは、HTML形式のメール自体が感染の媒体となるコンピュータウイルスのことであり、
メール本文内のスクリプトを悪用して、インターネット上からウイルスをダウンロードして自動実行させ
るものである。なお、ウイルスが混入されているファイルが添付されているメールを、ウイルスメールと
呼ぶ場合もある。

イ：スニффイングとは、ネットワークを流れるパケットを収集して、その内容を解析・閲覧する盗聴の手
法である。

ウ：メール爆弾とは、ターゲットのサーバに対して、一度に大量のメールを繰り返し送りつけることで、そ
のサーバを麻痺させる攻撃である。

エ：サラムテクニクとは、大量の迷惑メールを送信する際、送信元を偽装するためにまったく関係のない
メールサーバに中継させる攻撃である。

正解 エ

ア：適切な記述である。

ウイルスメールとは、HTML形式のメール自体が感染の媒体となるコンピュータウイルスのことであり、
メール本文内のスクリプトを悪用して、インターネット上からウイルスをダウンロードして自動実行させ
るものである。なお、ウイルスが混入されているファイルが添付されているメールを、ウイルスメール
と呼ぶ場合もある。

イ：適切な記述である。

スニッフイングとは、ネットワークを流れるパケットを収集して、その内容を解析・閲覧する盗聴の手
法である。

ウ：適切な記述である。

メール爆弾とは、ターゲットのサーバに対して、一度に大量のメールを繰り返し送りつけることで、そ
のサーバを麻痺させる攻撃である。

エ：誤った記述である。

大量の迷惑メールを送信する際、送信元を偽装するためにまったく関係のないメールサーバに中継させ
る攻撃は、不正中継である。

・脅威への対策

第4回 初級 問1 - 6より 正答率：68.8%

以下の文章は、情報セキュリティに関する知識を述べたものです。正しい場合は、誤っている場合は×と
しなさい。

ハードディスクを処分する際は、データが不正に読み取られないように専用のソフトウェアを用いて、デー
タの復元が不可能な状態にしてから廃棄する。

正解

ハードディスクを処分する際は、データが不正に読み取られないように専用のソフトウェアを用いて、
データの復元が不可能な状態にしてから廃棄する。

第4回 管理士 問2 - 36より 正答率：43.8%

情報セキュリティのために認知されている行動の1つである事前対策・抑制策に関する記述のうち、誤って
いるものはどれか。

- ア：事前対策とは、リスクがあるとわかっているものに対し、その状況に応じて、事前に情報セキュリティ
対策を施しておくことであり、ウイルス対策ソフトの導入やファイアウォールの設置などが挙げられる。
イ：抑制策とは、直接的に情報セキュリティ対策ができない、あるいは対策が困難である場合に、代替策と
して実施することであり、セキュリティエリアの設置、セキュリティゲートの設置、従業員教育などが
挙げられる。
ウ：事前対策を実施することにより、リスクを確実に軽減できる効果が得られるが、事前対策のために莫大
な費用がかかる場合などは、その対策とは別に、抑制策を採用する。
エ：抑制策は間接的な効果しか得られないため、対策を直接実施する事前対策と比較すると効果の確実性は
低くなるといえるが、抑制策には従業員教育などにより社内の情報セキュリティレベルの底上げ効果が
あるため、積極的に導入すべきである。

正解 イ

情報セキュリティのために認知されている行動の1つとして、事前対策と抑制策がある。

事前対策とは、リスクがあるとわかっているものに対し、その状況に応じて、事前に情報セキュリティ対策
を施しておくことであり、ウイルス対策ソフトの導入やファイアウォールの設置などが挙げられる。一方、
抑制策とは、直接的に情報セキュリティ対策ができない、あるいは対策が困難である場合に、代替策として
実施することである。

事前対策を実施することにより、リスクを確実に軽減できる効果が得られるが、事前対策のために莫大な費
用がかかる場合などは、その対策とは別に、抑制策を採用する。なお、抑制策は間接的な効果しか得られな
いため、対策を直接実施する事前対策と比較すると効果の確実性は低くなるといえるが、抑制策には従業員
教育などにより社内の情報セキュリティレベルの底上げ効果があるため、積極的に導入すべきである。

ア：適切な記述である。

イ：誤った記述である。

抑制策の具体例として、従業員に対する教育などの啓発活動や、機密保持契約の締結などが挙げられる。
なお、セキュリティエリアの設置やセキュリティゲートの設置は、事前対策の具体例である。

ウ：適切な記述である。

エ：適切な記述である。

. コンピュータの一般知識

第4回 初級 問1 - 2より 正答率：59.5%

以下の文章を読み、正しい場合は、誤っている場合は×で答えなさい。

コンピュータで使用する文字にコードを割り当てたものを文字コードといい、シフトJISコードやQRコードなどの種類がある。

正解 ×

コンピュータで使用する文字にコードを割り当てたものを文字コードといい、シフトJISコードやASCIIコード、EUC、Unicodeなどの種類がある。

なお、QRコードとは、縦と横の二方向に情報を記録させたマトリックス型二次元コードの1つである。例えば、URLの情報をQRコードで表したものを携帯電話に搭載されている対応カメラで接写して情報を読み取り、該当するWebサイトへ直接アクセスするなどの用途がある。

第4回 管理士 問2 - 5 7より 正答率：56.0%

アクセス速度が最も速い記憶装置は、次のうちどれか。

ア：レジスタ イ：SRAM ウ：主記憶装置 エ：磁気ディスク装置

正解 ア

アクセス速度が最も速い記憶装置はレジスタであり、次にキャッシュメモリ(SRAM)、主記憶装置(DRAM)、磁気ディスク装置の順に並ぶ。